



水戸地本沖縄平和研修開催！



辺野古新基地建設現場をJR東労組OB
梁次さんのガイドのもと踏査しました。



対馬丸記念館で対馬丸に乗船した語り部から
壮絶な体験談を語っていただきました。

4月21日～23日に、JR東労組水戸地本は昨年につき「平和・人権・民主主義」を守る取り組みとして地本沖縄平和研修を開催しました。

初日は沖縄県南部を中心にまわり、住民やひめゆり学徒隊などが追い詰められた荒崎海岸の地に立ち、沖縄戦の追体験をしました。また、対馬丸記念館を訪れ、当時4歳で対馬丸に乗船した語り部から、家族を失った悲しみだけではなく、憲兵から箝口令が出され、何も語れずに辛かったこと等、壮絶な体験談を語っていただきました。また、対馬丸のみならず約7200隻の商船や機帆船が軍に徴用され、米軍の潜水艦や航空機攻撃で迎撃されました。戦争で犠牲になるのは市民や労働者であることを学びました。2日目は辺野古新基地建設現場や米軍基地など、沖縄県民が虐げられている現状を中心に学びました。3日目は研修に同行したJR東労組OB会梁次さんから、沖縄戦や辺野古新基地建設の現段階と沖縄を再び戦場にさせないためのたたかひの問題提起を受け、全参加者で意見交換を行いました。

参加者から「沖縄の海はキレイなイメージだったが多くの命が亡くなったことに心苦しくなった」「戦闘機の離発着の音で隣で会話していたのに全く聞こえないことに驚いた」「米軍に捕まるぐらいなら自決して死ぬべきだという考え方について、教育の恐ろしさを感じた」など、戦争の悲惨さや教育をはじめとする今の社会について議論しました。沖縄戦は、住民が戦争に巻き込まれ、県民4人に1人が犠牲となりました。多くの住民が犠牲になる戦争を二度と起こしてはならないことを学びました。そして、私たちが創意工夫して平和運動を実践していくことを確認しました。

世界では、アメリカのイラン侵攻やイスラエルとパレスチナの紛争など、戦闘が続いていることで多くの市民や労働者が尊い命を奪われています。日本でも憲法を改悪する動きや防衛費の増額、武器輸出緩和、辺野古新基地建設をはじめとする戦争の準備が着実に進められています。JR東労組水戸地本は、沖縄の過去や現実を学び、テロにも戦争にも反対し、命を大切に安心して暮らせる社会の実現と憲法9条を守り広める運動を目指していきます！

戦争に反対し、憲法9条を守り広めよう！